

# 平成28年産農畜産物に係る 十勝管内農協取扱高について〔概算〕

〔平成28年12月23日〕  
十勝地区農業協同組合長会  
十勝農業協同組合連合会  
北海道十勝総合振興局

## 1 考え方

本集計は、平成28年産農畜産物に係る十勝管内24農業協同組合の取扱見込額について、農協ごと  
に試算した概算値の集計であり、商系取扱高（農協以外の一般商社等取扱分）は含んでいない  
ことから、十勝管内農業産出額とは異なる。

取扱高には、直接支払交付金、生乳生産者補給金を含むが、産地交付金、農業共済金支払額は  
含まない。

## 2 平成28年の概要

農協取扱高は、耕種部門が台風長雨の  
影響を受け減収、畜産部門は増収し  
2,923億円

### ◇耕種部門取扱高◇ 948億円（対前年比 67% [構成比32%]）

本年は、融雪が早く、春作業が順調に進んだが、6月以降、ぐずついた天候が続き、8月には  
台風などで記録的な大雨に見舞われたことから農作物全般で、収量及び品質に影響。

- 小麦は、6月以降、ぐずついた天候が続いたことなどから平年に比べ収量が大きく下回ると  
ともに、品質も悪かったことから前年比60%減。
- 豆類は、台風などの影響により菜豆、小豆の収量が平年に比べ大幅に下回るとともに、色  
流れなど品質にも影響があったことから前年比40%減。
- ばれいしょは、収穫時期に台風の影響による滞水などの影響を受け、減収したことから前  
年比9%減。
- てんさいは、春先の風害や台風などの影響により、減収したことから前年比28%減。
- 野菜は、秋以降、市況が高値で推移したものの、ほとんどの品目が前年を下回る作柄とな  
ったことから前年比12%減。

### ◇畜産部門取扱高◇ 1,975億円（対前年比 108% [構成比68%]）

- 酪農は、生乳生産が前年を上回ったとともに、子牛等の価格の上昇などから前年比6%増。
- 肉用牛は、枝肉価格や素牛取引価格が堅調に推移したことから、前年比14%増。

## 3 取扱高集計結果

（単位：億円、%）

区分	平成28年（概算値）		平成27年（概算値）		対前年比		
	取扱高	構成比	取扱高	構成比	増減額	前年比	
耕種	麦類	162	5.6	408	12.6	△ 246	40
	雑穀・豆類	109	3.7	183	5.7	△ 74	60
	ばれいしょ	241	8.2	265	8.2	△ 24	91
	てんさい	225	7.7	311	9.6	△ 86	72
	野菜	206	7.0	235	7.3	△ 29	88
	その他	5	0.2	7	0.2	△ 2	71
	小計	948	32.4	1,409	43.6	△ 461	67
畜産	酪農	1,212	41.5	1,148	35.5	64	106
	生乳	1,029	35.2	988	30.6	41	104
	肉用牛	721	24.7	634	19.6	87	114
	豚・鶏	16	0.5	17	0.5	△ 1	94
	その他	26	0.9	25	0.8	1	104
	小計	1,975	67.6	1,824	56.4	151	108
総合計	2,923	100.0	3,233	100.0	△ 310	90	

※ 取扱高は税抜き。